

# MIYAKE

# ISSEY 展

EXHIBITION



## 三宅一生の仕事

The Work of Miyake Issey

2016 3.16 Wed. → 6.13 Mon.

## 展覧会概要

国立新美術館では、来る2016年3月16日(水)から6月13日(月)まで、デザイナー・三宅一生氏の展覧会を開催します。2007年の開館以来、「さまざまな美術表現を紹介し、新たな視点を提起する美術館」を活動理念とする国立新美術館では、デザインは重要な展示テーマの一つと考えてきました。このたびの展覧会「MIYAKE ISSEY展：三宅一生の仕事」は、三宅氏が活動を開始した1970年から現在に至る約45年間の仕事を紹介する、これまでにない規模の展覧会となります。

三宅氏は常に次の時代を見据えながら、新しい服づくりの方法論と可能性を示しています。それは、1960年に日本で初めて開催された世界デザイン会議において、当時、多摩美術大学在学中であった三宅氏が、衣服デザインが含まれないことに疑問を持ち質問状を送ったことに始まります。既にそこには、衣服は時代と共に移ろう「ファッション」として存在するのではなく、より普遍的なレベルで私たちの生活と密接に結びついて生まれる「デザイン」であるという三宅氏の思想が見て取れます。以来、既成の枠にとらわれない自由な発想のもと、独自の素材づくりから始まり、「一枚の布」と身体との関係や、そこに生まれる「ゆとり」や「間(ま)」を追求しています。また、チームと共に粘り強いリサーチと実験を行い、革新性と着心地のよさを兼ね備えた衣服を生み出しています。

本展では、初期から最新プロジェクトまでの全仕事を通して、ものづくりに対する三宅氏の考え方やデザインアプローチを明らかにし、未来に向けた更なる創作の可能性を探ります。三宅氏の仕事の多様性や豊かさを示しつつ、細部をも丹念に紹介する本展は、今なお進化し続ける三宅氏の服づくりについて明らかにするものです。子どもから大人まで、誰もががつくることの楽しさに触れていただくとともに、本展が自由な発想を押し広げ、創造力を刺激する機会となれば幸いです。

### 三宅一生(みやけ いっせい)氏 プロフィール

衣服デザイナー。1938年広島県生まれ。1970年三宅デザイン事務所設立。

1973年よりパリコレクションに参加。「一枚の布」のコンセプトを基に伝統的な技と

最先端の技術を応用しながら独自の服づくりを行う。2010年文化勲章受章。

## 展覧会の見どころ

### ◎ 三宅氏の服づくりの考え方を展示

三宅氏は時代や社会が求めるものを敏感に感じ取り、何よりも人間を中心に置いた服づくりを行っています。それは、「ジーンズやTシャツのように多くの人が自由に着られる服をつくりたい」という三宅氏の言葉にも表れています。

### ◎ 伝統 × 最新テクノロジー

三宅氏は伝統技術や職人技を自身の衣服デザインに生かすとともに、新しい素材の開発や服づくりの方法を探求してきました。このような取り組みにより、PLEATS PLEASE や A-POC のような従来の服づくりとは異なる画期的なデザインが生み出され、人々の生活をより一層彩ってきました。本展では初めて三宅氏独自の「製品ブリーツ」の制作過程を展示します。

### ◎ グラフィック・デザイナー、佐藤卓(さとうたく)氏による 会場およびヴィジュアル・デザイン。

デザイナー、吉岡徳仁(よしおかとくじん)氏による  
「グリッド・ボディ」を用いた空間デザイン

佐藤卓氏による会場デザイン(ルームC)は、楽しみながら三宅氏の服づくりを理解する発見の場となります。さらに佐藤氏によるヴィジュアルも三宅氏の衣服のもつ魅力を伝えます。

吉岡徳仁氏が空間デザインを手がけたルームA及びBにおいて、今回の展覧会のために、新たにデザインされた「グリッド・ボディ」を用いた展示を行います。

### ◎ 全作品完全撮り下ろしの展覧会カタログ

本展のために写真家、岩崎寛(いわさきひろし)氏が撮影した写真を収録した展覧会図録が求龍堂から出版されます。和英併記。

## 展覧会の構成

素材づくりからはじまる服づくりに、驚くべき一貫した姿勢をつらぬき、同時に、新たな解決策を積極的に追求している三宅一生氏。三宅氏は服づくりの伝統に挑みながら、立体である身体を二次元の布地で覆いつつも、その動きに呼応する服を探求しています。自由な発想や革新性、伝統、環境への配慮など、三宅氏の服にはこうしたテーマへの挑戦が見て取れます。「一枚の布」をいかにして使い、活かすのか — この創造的課題は、三宅氏が長年にわたって取り組んできたテーマです。これらは、多様な服を創出してきた三宅氏の根幹にある問いかけであり、そのものづくりの基盤をなしてきました。

本展は大きく三つの部屋で構成されます。

### ルーム A

衣服の原点にあるもの — それは身体です。三宅一生氏は自身のデザイン作業の中心に常に変わらず身体を据えています。かたちもあれば触知もできる身体は、所作や姿勢などとおして服のデザインに息を吹き込みます。抽象的なかたちの衣服は、人に着られることにより初めてその姿を現し、本来の目的を果たします。それはまるで身体と衣服の間で交わされる対話のようで、三宅氏にとって、布と身体間の空間こそが重要です。三宅氏の服の最大の特徴は衣服のもつ機能性と革新性の調和、そして着る人の自由度の高さと言えるでしょう。一枚の布から服をつくること — それこそが三宅氏の最大の探求です。一枚の布がもたらす抽象的とも言えるかたちによって、身体が何の規制も受けずに解放されるばかりか、服は着る身体の形状それぞれによって異なる反応を示します。

ルームAでは、三宅氏の原点ともいえる1970年代の服を展示します。自由な発想と身体を解放を求めた三宅氏は、1970年に三宅デザイン事務所を立ち上げ本格的な活動を開始します。刺青の図柄を用いた第二の皮膚ともいえるジャンプスーツ、バイアス地の三枚の正方形の布を組み合わせ異なる身体サイズに対応可能なハンカチーフ・ドレス、一枚の布からつくられ身体にふわりとはおるコクーン・コート、そして、生地幅いっぱいに裁断した麻のジャンプスーツ。変幻自在な三宅氏の衣服は、着る人の身体に合わせてその形態だけでなく、服のもつ意味までも変化させてしまうのです。その新しい衣服のかたちは、三宅氏による素材のリサーチと開発の成果であり、伝統的な素材づくりの技術が新たに見せる表情でもあります。伝統への深い畏敬の念と新しい素材の開発 — 三宅氏の服づくりには、そのはじまりから一貫した思想が見て取れます。



ISSEY MIYAKE  
《タトゥー Spring/Summer 1971》  
1970年 撮影：岩崎寛



ISSEY MIYAKE  
《麻のジャンプスーツ Spring/Summer 1976》  
1975年 撮影：岩崎寛



ISSEY MIYAKE  
《ウォーターフォール・ボディ Autumn/Winter 1984》  
1984年 撮影：岩崎寛



## ルーム B

ルームBでは特に1980年代において三宅氏の中心的な課題となった、身体に焦点を合わせた服のシリーズを展示します。この時期の三宅氏は、自身のデザインの実践の基盤をなすこととなった最先端の技術研究と形態の研究とを引き続き行っています。このような取り組みの中で制作された、「ボディ」と呼ばれる胴体部のみを覆う衣服には、繊維強化プラスチックや合成樹脂、ラタンなど、従来衣服には用いられてこなかった素材が取り入れられました。このような素材からかたちづくられる、流れるような曲線と滑らかなフォルムは、触覚的な硬質さと対照的です。まるで彫刻作品のようなこれら一連の衣服は、一枚の布がつくりだすかたちへの飽くなき探求と、それを可能にするテクノロジーとの融合や伝統工芸の手技から生み出されました。

## ルーム C

三宅氏は、常にチームとして服づくりに取り組んでいます。チーム内のテキスタイル・デザイナーや繊維メーカー、さらには異分野の専門家との協働こそが、三宅氏の現在に至る他に類を見ない活動を支えてきたのです。ルームCでは、三宅氏の最も革新的な側面を、いくつかのテーマに分類して展示します。

布づくりからスタートする — ものをつくる人間として三宅氏は、どんな素材でも服にすることができると信じています。これまでも和紙や馬尾毛、ラフィア椰子など、伝統的な素材を新たな方法で活用してきました。また同時に、熱による断裁が可能でスナップをとめることによって衣服となるポリエステルなど未来を志向する生地も探求しています。さらには、表面に箔をプレスし新たな表情を加えることで衣服のリユースを提案するシリーズや、ニードルパンチの技法により異なる素材を重ね合わせ独特の風合いや表情を持つ服も発表しています。

なかでも「プリーツ」は三宅氏の服づくりにおいて重要な位置を占めています。「製品プリーツ」という、生地を服のかたちに裁断縫製してからプリーツ加工を行うという三宅氏独自の発想に基づくプリーツを開発して以来、さまざまなプリーツを発表しています。1990年代初頭には、ウィリアム・フォーサイス率いるフランクフルト・バ

ISSEY MIYAKE  
《葉っぱプリーツ Spring/Summer 1990》  
1989年 撮影：岩崎寛



レエ団のために、身体の動きを解放し、遊び心や創意に満ちた丈夫で  
 実用性の高いプリーツを考案しました。熱処理が可能なポリエステル  
 の布地を用いて、三宅氏が成し遂げたもの — それは、布を体に寄  
 り添わせる最古の方法のひとつである襷(ひだ)を、美的な要素だけ  
 でなく実用性も備えた衣服に変貌させたことです。三宅氏はこの取  
 り組みによって身体と衣服とのあいだに新たな動きの関係を生み出  
 し、新しい衣服を創り出すことに成功したのです。このプリーツの開  
 発をさらに進めた結果、1993年にはPLEATS PLEASEが誕生しました。

ものづくり — 三宅氏はみずからの活動をこのように呼びます。そし  
 て、人が着るものをつくるためには着る人への敬意と環境を敬う心が  
 必要だと考えています。A-POCと132 5. ISSEY MIYAKEはそのような  
 信念から生まれました。A-POCとは三宅氏が藤原大(ふじわら だい)  
 氏と共に1998年に開発した画期的な製造工程を伴う服のことで、完  
 成時の服のかたちを組み込んだ上で筒状に生地をつくるものです。廃  
 棄物はほとんど出ません。

2010年に発表された132 5. ISSEY MIYAKEは、境界線も専門領域も  
 超えたメンバーが集まり結成されたクリエイティブ・チーム、リアリ  
 ティ・ラボで開発されました。再生ポリエステルを素材に、工学アル  
 ゴリズムに触発された手法によって生まれた衣服は、幾何学的なかたち  
 に折りたたむことができ、それを広げて着る人が身体を動かしてはじ  
 めて生命がやどります。132 5. ISSEY MIYAKEの技術は服づくりの枠  
 を超え、ペットボトル再生繊維でつくられる照明器具の開発にまで広  
 がりを見せています。展覧会を通して遊び心溢れる数々の有益なデザ  
 インと交わり、それらがもつ魅力に触れる機会となることでしょう。



ISSEY MIYAKE  
 《コロンブ Spring/Summer 1991》  
 1990年 撮影:岩崎寛



132 5. ISSEY MIYAKE (No. 1ドレス)  
 2010年 撮影:岩崎寛

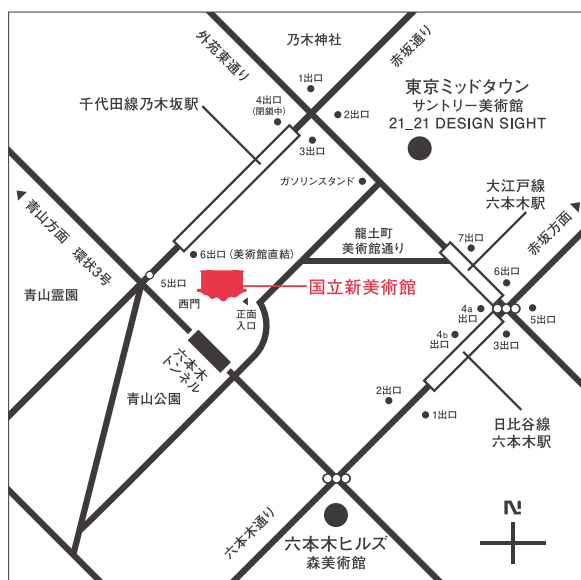


132 5. ISSEY MIYAKE 《スクエア・ウール Vol. 4》  
 2015年 撮影:岩崎寛

# 開催概要

- ◎ 展覧会名 MIYAKE ISSEY展：三宅一生の仕事
- ◎ 会期 2016(平成28)年3月16日(水)～6月13日(月)
- ◎ 休館日 毎週火曜日 ただし、5月3日(火・祝)は開館
- ◎ 開館時間 10:00-18:00 金曜は20:00まで \*入場は閉館の30分前まで
- ◎ 会場 国立新美術館 企画展示室2E【東京・六本木】
- ◎ 主催 国立新美術館
- ◎ 共催 公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団、株式会社 三宅デザイン事務所、株式会社 イッセイ ミヤケ
- ◎ 観覧料(税込) 当日 1,300円(一般)、800円(大学生)  
前売/団体 1,100円(一般)、500円(大学生)

\*5月18日(水)は「国際博物館の日」につき入場無料  
\*高校生、18歳未満の方(学生証または年齢のわかるものが必要)、および障害者手帳をご持参の方(付添の方1名を含む)は入場無料  
\*団体券は国立新美術館でのみ販売(団体料金の適用は20名以上)  
\*前売券は2016年1月15日(金)から3月15日(火)まで販売(国立新美術館では3月14日(月)まで)  
\*前売券および当日券のチケット取扱場所:国立新美術館、ほか主要プレイガイド(手数料がかかる場合があります。)  
\*会期中に国立新美術館で開催中の他の企画展および公募展のチケット、またはサントリー美術館および森美術館(あとり割対象)で開催中の展覧会チケット(半券可)を提示された方は、団体料金が適用されます。  
\*65歳以上の方(年齢のわかるものが必要)は会期中に国立新美術館で開催中の公募展チケット(半券可)の提示で、大学生団体料金が適用されます。



国立新美術館  
〒106-8558 東京都港区六本木7-2-2  
国立新美術館ホームページ <http://www.nact.jp/>

アクセス  
東京メトロ千代田線 乃木坂駅 青山霊園方面改札6出口(美術館直結)  
東京メトロ日比谷線 六本木駅 4a 出口から徒歩約5分  
都営地下鉄大江戸線 六本木駅 7出口から徒歩約4分

展覧会に関するお問合せ 03-5777-8600(ハローダイヤル)  
展覧会ホームページ <http://2016.miyakeissey.org>



関連イベントについては、詳細が決まり次第ご案内いたします。最新情報については、国立新美術館ホームページをご覧ください。

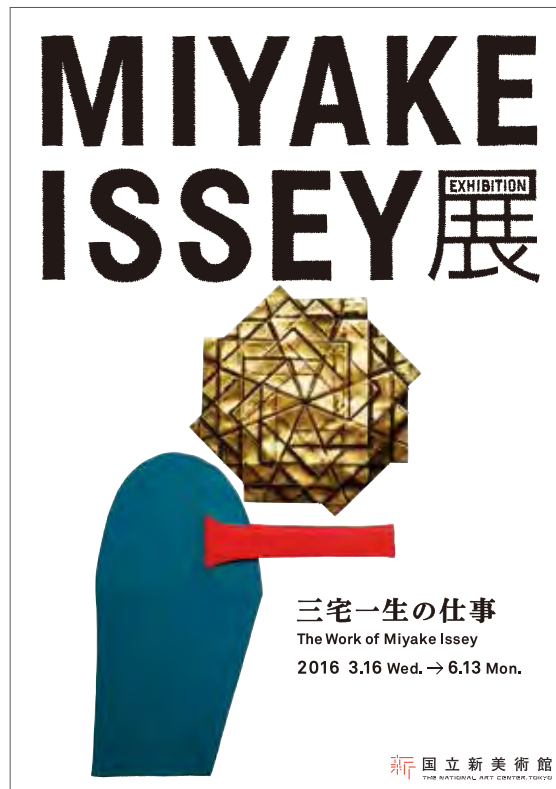
報道関係の  
お問い合わせ

「MIYAKE ISSEY展」広報事務局(国立新美術館内)  
〒106-8558 東京都港区六本木7-2-2  
Tel: 03-6812-9925 Fax: 03-3405-2531 E-mail: [miyakeisseypr@nact.jp](mailto:miyakeisseypr@nact.jp)

# 「MIYAKE ISSEY展：三宅一生の仕事」

## 広報用画像データ一覧

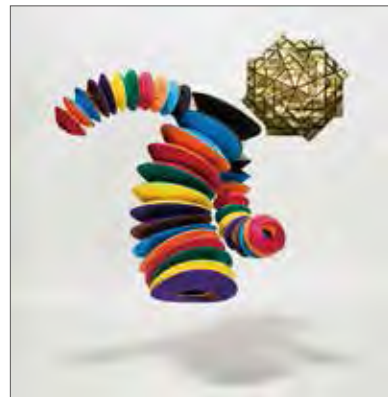
展覧会広報用として画像データをご用意しております。ご希望の場合は別紙の申込書に必要事項をご記入の上、ファックスもしくはメールにてお申し込みください。掲載情報を確認後、リストの全画像をお送りいたします。



1 「MIYAKE ISSEY展：三宅一生の仕事」  
メインビジュアル



2 左:132 5. ISSEY MIYAKE 《No.1ドレス》《No.1 ジャケット》  
2010年 撮影:岩崎寛  
右:132 5. ISSEY MIYAKE 《No.1ドレス》  
2010年 撮影:岩崎寛



3 左:ISSEY MIYAKE 《フライング・ソーサー Spring/Summer 1994》  
1993年 撮影:宇土浩二  
右:132 5. ISSEY MIYAKE 《No.10 スカート》  
2010年 撮影:宇土浩二



## 「MIYAKE ISSEY展: 三宅一生の仕事」

### 広報用画像データ一覧

展覧会広報用として画像データをご用意しております。ご希望の場合は別紙の申込書に必要事項をご記入の上、ファックスもしくはメールにてお申し込みください。掲載情報を確認後、リストの全画像をお送りいたします。



4 ISSEY MIYAKE 《タトゥー Spring/Summer 1971》  
1970年 撮影:岩崎寛



5 ISSEY MIYAKE 《麻のジャンプスーツ Spring/Summer 1976》  
1975年 撮影:岩崎寛



6 ISSEY MIYAKE 《ウォーターフォール・ボディ Autumn/Winter 1984》  
1984年 撮影:岩崎寛



7 ISSEY MIYAKE 《葉っぱプリーツ Spring/Summer 1990》  
1989年 撮影:岩崎寛

## 「MIYAKE ISSEY展：三宅一生の仕事」

### 広報用画像データ一覧

展覧会広報用として画像データをご用意しております。ご希望の場合は別紙の申込書に必要事項をご記入の上、ファックスもしくはメールにてお申し込みください。掲載情報を確認後、リストの全画像をお送りいたします。



8 ISSEY MIYAKE 《バス(馬尾毛) Autumn/Winter 1990》  
1990年 撮影：岩崎寛



9 ISSEY MIYAKE 《コロンブ Spring/Summer 1991》  
1990年 撮影：岩崎寛



10 132 5. ISSEY MIYAKE 《No.1ドレス》  
2010年 撮影：岩崎寛



11 132 5. ISSEY MIYAKE 《スクエア・ウール Vol.4》  
2015年 撮影：岩崎寛

「MIYAKE ISSEY展：三宅一生の仕事」  
広報用画像データ・読者プレゼント用招待券申込書

「MIYAKE ISSEY展」広報事務局 行 Fax: 03-3405-2531 E-mail: miyakeisseypr@nact.jp

■ 画像データ申込み (ご使用希望画像にチェックを入れてお知らせください。なお、データはリストの全画像をお送りします。)

1    2    3    4    5    6    7    8    9    10    11

貴社名

---

媒体名(特集・コーナー名)

---

掲載/放送予定日                      月                      日                      発売/放送 (                      月号)

---

ご担当者名

---

Tel

---

Fax

---

E-mail (画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

---

画像到着希望日                      月                      日                      時頃までに送付

---

■ 読者プレゼント用招待券申込み (ご希望の場合はチェックをつけてください)

5組10枚を希望します

- \*本展を記事、番組などでご紹介いただくことを条件にお送りします。
- \*情報確認のため、プレゼント募集の掲載面も公開・発行前にお送りください。
- \*読者プレゼント用招待券の受付・発送などは貴編集部にてお願いします。
- \*発送は1月頃を予定しております。
- \*招待券の送付先をご記入ください。

〒

---

写真ご使用に際してのお願い

- \*作品写真の使用目的は、本展のご紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。
- \*写真掲載にあたっては、各画像の記載クレジットを全文表記してください。
- \*トリミングおよび文字のせはできません。
- \*基本情報確認のためゲラ刷・原稿の段階で下記の「MIYAKE ISSEY展」広報事務局までファックスまたはE-mailにてお送りください。
- \*掲載紙・誌、同録DVD等を必ず「MIYAKE ISSEY展」広報事務局までご送付いただきますようお願いいたします。

報道関係のお問い合わせ

「MIYAKE ISSEY展」広報事務局(国立新美術館内) 〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2  
Tel: 03-6812-9925 Fax: 03-3405-2531 E-mail: miyakeisseypr@nact.jp